

No.104

公民館だより

平成 10 年 5 月
宮津市字由良
由良の里センター内
由良地区公民館

由良岳・森ヶ鼻道によせて(十)

公民館長 山下 清 一

冷たく、春雨に煙る早春の由良岳。

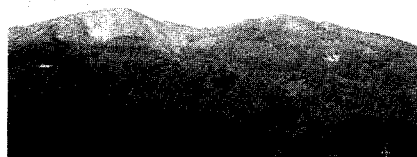
薄墨を流したように谷や尾根、杉林が仄暗く霞み、水蒸気が弱々しく立ち登っているのが遠望出来ます。今年の冬は去年に続いての暖冬で、山や谷の雪の雪も二月半には肉眼では見えなくなりました。

水辺で遊ぶ、鶺鴒の剽軽な仕種も見えず、群をなす四十雀や目白の群れもなく、早春の野は寒々とした枯野の景色です。

日の光は未だ浅く、山は未だ冬眠から覚め遣らず、ぼんやりと里の様子を見おろしているようです。冬枯れの野道や土手の名も知らぬ野草を踏みながら、小諸なる古城の辺り、と口遊みながら、藤村、の心情に心を寄せるのもこのころです。

よく晴れた昼下がり、森ヶ鼻の緩い坂道を登りつめると、北西の方、解け残った残雪を処々に残した六百米級の丹後の連山が望まれます。無双岬から冠島を挟んで博奕岬を遠望しながら、冬の花から春の海へと衣替えの様子が美しく見られるのも森ヶ鼻ならではの景色です。

由良川には、川漁の舟の影もなく、うす濁りの春の水を満々と湛えて静かな流れを見せています。今年の、「いさざ」漁はどうかナーと、気になるところです。ぬるぬると滑り込む春の味覚が舌先に甦って来ます。坂道の上に立ち静かに目を閉じると、大きく蛇行した旧道が懐かしく目の前に浮かんで来ます。ふと、川の土手や島の縁の石ころ場に自生する、「イタドリ」、取りに走り廻った子供のころの春の日が思い出されます。赤みを帯び丸々と太った「イタドリ」を見付けた時の嬉しかったこと、舌に残るあの、うす苦くスツパイ味、また「ズンバラ」(芒科の小植物)取りも下校時の日課の一つでした。



朝の風

二・三枚茎の皮を剥くと茎の中にやわらかな綿状の穂が隠されており、口に入れると何か和やかな舌触りの感触だったのを思い出します。

三月に入ると日も温かく、いよいよ春の気が濃くなって参りま

した。鶯のホウケロケロと下手な囀りも聞こえ始めました。朝早く、登園登校する児童の小さな列に出会いました。男子だけでも二十数名で登校した私達のころが思い浮かびます。もうすぐ卒園卒業、進級入学と、止まることなく時の移ろいに順応しつつ成長していく子供達の逞しい姿に接し大声で、お早ようお早ようと声をかけ合いました。私は、元気な足取りで朝の春日を頬に受けながら森ヶ鼻道を下って行く子供達を見送っていました。

春日差す 子供の頬に

行事報告

主事 酒田 治

●第十五回宮津市民卓球大会

十一月三十日(日) 出場され善戦された選手の皆様、ご苦勞様でした。卓球の由良として、今後も益々のご活躍をお願い致します。

個人戦優勝 川崎 清氏

●成人式

宮津市で成人を迎えられた方は二四一人でした。

由良地区では、次の一四名の方が成人を迎えられました。

(順不同敬称略)

北野 雅幸	濱田 啓正
松林 威寿	泉 晶雄
塩田奈津子	塩森 梨恵
西野 茂昭	大森 孝憲
中西あすか	野田 拓央
山口恵美子	山田 記代
岡田 叔子	升田 剛弘

「ご成人おめでとう」
お元気で頑張ってください。

●第十三回人権学習会

一月十八日(日)

講師 市教育委員会

同和教育指導員 内田 良美氏

昨年につき、内田先生に、「いじめと差別、あらゆる問題」について講演をお願い致しました。

平成九年度、宮津市の中学校区が、文部省の「同和教育推進地域」に指定され、地域ぐるみで、同和教育の充実に取り組んでまいりました。

そうした取り組みの中、いじめ問題と同和教育についてお話がありました。

◎いじめ問題

与謝管内の様子(小中学校)

平成六年―五件
平成七年―八年―五件
平成九年九月まで―四件
1、「いじめ」の特徴

●周囲の大人や、教師の目を盗んで行う。

●プロレスごっこ、冗談遊び、等の名を借りて暴力を振るう。

★力の弱い子に、大勢で、陰湿に継続して行なわれる。

2、「いじめ」の形態

●言葉によるいじめ

あだ名、アホ・バカ・ブス・豚・死ね。

●嫌なことをしたり、させたりする。

●持ち物を捨てる・殴る・裸にする・恐喝。

★面白半分で、遊びやゲーム感覚で行なう。罪の意識は至って希薄。

3、「いじめ」のサイン

●心理的不安定……ふさぎ込む

●情緒不安定。

●身体的不安定……体調を崩す

●裸にならない(風呂)

●物・お金の浪費……物がなくなる

●対人関係の変調……会話を避ける

●裸にならない(風呂)

●物・お金の浪費……物がなくなる

●対人関係の変調……会話を避ける

●裸にならない(風呂)

●物・お金の浪費……物がなくなる

●対人関係の変調……会話を避ける

★こういうサインに気付かないようでは、大人として失格といえる。

4、「いじめっ子」

●欲求不満の解消……学習不振

●家庭不平等

●劣等感の代償……勉強・運動

●意欲・家庭・家業等

●注意獲得行動……目立ちたがり・承認の欲求等

●人権意識の欠如……自己未確立・社会性の欠如・人間関係の希薄さ。

5、「いじめられっ子」

●動作や態度が鈍い……障害がある

●すぐ泣く・我慢強い・運動が苦手。

●個性が強い……長所・短所が多い

●多い・協調性・社会性がない

●癖がある。

●ぶりっ子(変人)……勉強ができる

●転校生……言葉が変・おとなしい

●家庭状況……貧乏・金持ち・欠親・職業。

★人と違った所を持つている子

Ⅱ個性的な子。

6、望ましくない大人態度

●もつと強くなれ・先生に言いつける・弱虫。(命令・指示)

●意気地なし・お前もやり返せ

・負けるな。(脅迫)

●我慢は人を育てる・もまれて強くなる。(説教・講義)

●何をされたのか・他に何をやらされたのか。(尋問)

●早く忘れる・何でも買ってやる。(すり替え)

●あなたも悪い・何かしたんだろう・君も反省を。(糾弾)

★いじめられたつ子の特徴はあげられるが、だから、いじめられる側にも問題があるという考え方は全く本質を見ない暴論である。

7、早期発見・早期対応

(1)いじめつ子へ

●社会で許されないことは、子供でも絶対許されないものである。

●欲求不満等の解消に努める。

●保護者の協力と援助を求める。

(2)いじめられた側へ

●保護者と連携し具体的、有効的な事実で精神安定を図る。

●「NO」と言える子供に育てていく。

(3)傍観者へ

●心理状況を把握した上で、正義を育てていく。

●家庭・地域社会の協力を求める。(学習会資料より)

◎いじめは人の目にふれないよう、陰湿化し行なわれていきます。

家庭においても、常に子供の生活を注視して行かねばと思えます。

今回の学習について、同和問題についての分が報告出来ませんでした。次回で記載させていただきます。

●四部対抗男女バレーボール大会

二月一日(日)

当日、体育館も嬉しい一日だ

ろうと思えます。

何故…そうです…昨年バレーに来られてから今日まで、一度も顔を見せてない方も居られるはずです。

そうした方が見えられることが、体育館は嬉しいのです。

皆さん、お元気だったかな？ 今日、好プレー、珍プレー

が、だんだん熱が入り賑やかになつて来たな。特に女性群は元気がいいな…みんな頑張れよ

…だんだん静かになつて来たな…アーアー終つたのか、又

一年、顔を見せてもらえない方もいるんか…奇麗に掃除をしてもらつて有難う。

体育館の独り言でした。

男子の部 女子の部

優勝 一部 三部

準優勝 三部 二部

三位 二部 一部

四位 四部 四部

●四部対抗囲碁大会

二月一日(日)

午前から午後にかけて、熱い

戦いが幕を閉じました。

毎年観戦させていただき、一対一の勝負、さぞかしお疲れになられたことと思います。

戦いすんで、ビールで一杯と行きたいですネ。

優勝 一部

準優勝 二部

●生涯学習講演会

(婦人会共催) 二月二十二日

生涯学習講座を開催致しました。

青少年は今、どうして生きて行こうとしているのでしょうか。

講師として、宮津市の窓相談室、三上 均先生の「子供の

寝と青少年のいじめを考える」についての講演をお聞きしました。その中の一部を紹介させていただきます。

●ともが丘、A少年の事件。猫を殺した…一年以上妄相

期間後、今度は目標を人間に向けて行つた。

今は少年刑務所に入所。二十

五才頃に社会に復帰すると思
うが、社会生活に対応出来る
であろうか。

「何故ならば、まだまだ親、兄
弟と一緒に過ごす年頃なのに
そうした生活が出来ない。」

(家庭の教育)

●ストレス。

ストレスがたまる。

ストレスをどこで解消するか。
むかついた……ストレスがど
こかで解消できればいいが、
解消できなければ「きれる」
理性心が彼等に無くなる……

(行動)

●女性教師の事件で。

ストレスを解消する手段とし
て、！注意され！「ムカツク」
ナイフを取り出して見せた。
もし先生が驚くとかしていた
ら殺人にまでなっていないかっ
たのではなかったか「きれ
る」。直接的な行動に移つて
しまったものと思う。
誰にでも、ストレスは溜まる。
それを解消する力があるか。

●解消する力を育てる。(耐性)
●登校拒否、家庭内暴力の移り
変り。

(前)家から一步も外
に出ない。

登校拒否(現在)家から出る。

デパート等へ平
気で行っている。

(前)家に引きこもつ
て柱は切る、天
上板はこわす。

(現在)アパートでも借
りてやると出て
行く。

●子供達がお父さんをどう見て
いるか。(アンケート)
お父さんが好き、三割程度。
①父は地域の人・会社の人に認め
られている。
②休みの日に、日曜大工をして色々
ものを直してくれる。
③子供を大人扱いにしてくれる。

●子供と父親とのかかわり。

(1)小学校の間は、お母さんが
主体となるが、それを手助

けして行く。
(2)中学校……勉強・生活して
行く中がかかわって行く。

●子育てこんな家庭。

(1)共感のある家庭。
楽しいこと・悔しいこと・
辛いこと・哀しいこと・心
の問題……親子で共有。
(2)規制のある生活。
禁止・命令・指示・罪を与
える・注意・点検・睨み・
受容・
叱つた後、五分程たって、
話しかける——話して来た
ら答えてやる——笑顔——話し
てやる——褒める——認める。

(3)権威——父——子
母——子

●等身大。
子供を等身大で受け止めてや
る。ありのままの姿で受け止
めてやる。
金や物に心を乗せるのは他人
ごと、私達の心中を覗かれて
いる様な痛いお話ばかりでし
た。事件の後、文部省を始

め関係省庁において、少年法
の改正、教育問題等、色々と
討議、検討されています。特
に道徳教育・家庭内の躰の問
題が大きく取り上げられてい
ます。
次代を担う子供達の為に、大
人もお互いに協力して行か
ねばと思います。



四部対抗バレーボールに

参加して

縞田 一 則

自治学級

二月八日

大変厳しい寒さの中、二月一

日恒例の四部対抗バレーボール

大会が実施された。今年度は夏

に予定されていた、四部対抗野

球大会、ソフトボール大会、又

秋の区民運動会が雨のため中止

となり、各地区の皆さんの心中

期するものがあつたのか、今回

のバレーボールは、例年以上に

盛り上がった様に思う。男女

とも普段はほとんど運動らしき

ものはされたことはないと思う

が、そんな事は忘れたかの様

に、息を切らし真剣にボールを

追う姿が目によきついている。

冬の皮バレーは威力のあるス

パイクや、サーブレシーブの時

など、骨身にしみて腕や手が痛

むが、それでも皆さん、それを

ものともせず、いやものともし

ていたんでしようが、それを押

しのける熱気と、ファイトで、

絶対負けてなるものかと、ゲー

ムに熱中されていた様である。

都会ばかりでなく、地方にお

いても、人と人とのつながりが

希薄になりつつある昨今、年代

や職業の異なった人達が、こう

いったスポーツを通じて、わず

かながらでも触れ合いを持つと

いう事は、非常に有意義な事だ

あると思う。

今大会では各チームとも力が

均衡しており、大接戦の末、脇

が優勝させてもらった。来年も

また優勝を目指して、秘策を

練つているところである。



◎山下市議会議員

(由良自治連合会長)

この機会に、市政及び由良地

区の施策の現況を、報告させて

いただくことを有難く思ってい

ます。

十二月末、海上保安庁の「く

らま」の座礁事故が発生し、近

所の皆様には大変ご迷惑をおか

けしました。

又、世界の金融問題等、色々

な問題が報道されています。

宮津市も二十一世紀に向かっ

て、第四次総合計画の総仕上げ

の時期となっています。

道路交通網の整備・福祉の充

実・生活環境の整備充実・市役

所内のリストラ推進などに向け

精力的に取り組んでいます。

こうした基盤整備を行なうな

か、何といつても若者が定住で

きる条件作り。

●工場の誘致・宅地造成・京都

縦貫自動車道の早期完成。

新浜・松原線については十六

mの道路を整備促進中です。

●三月八日には、京都縦貫道―綾

部―舞鶴大江間(二、九km)が

開通し、丹後の一部に高速自動

車道が入って来るという嬉しい

状況です。

なお、鳥取―豊岡―宮津自動

車道の整備も計画中でありま

す。

◎福祉施策の整備。

●ふれあい&すこやかフィール

ド―日置地区に着工、来年に

はホーム五十床の他、色々な

設備も整備されますが、最終

的には在宅看護が大切と思わ

れます。

●高齢化社会への対応として、

介護保険制度が、平成十二年に導入されます。この制度に対応するため、内容を検討する準備が進められています。

◎生活環境の整備。

●不燃物処理場は(栗田地区)

平成八年、九年、十年の三年で、事業費二十一億円をかけ建設中です。

平成十一年より、約十五年間分別集取以外の(焼却や、リサイクルできないごみを破碎、溶解して減容したものを埋め立て)処理場として稼働します。

●下水道について。

宮津湾流域以外の地区については、宮津市水洗化総合計画を策定して(九年、十年)各地区の計画を具体化出来るものと期待をしております。

●市のリストラ。

霊柩車の利用が、四月一日より民間に委託されます。日交・京タクの二業者

基本料金は、十kmまで市民が負担。十kmまで一七、一一五円となります。十km以上は市が負担します。

以上二十一世紀に向け、第四次総合計画が推進されます。

◎由良地区の施策について。

(1)九年度、府の事業。

海洋環境整備を脇地区、宮川尻に階段護岸一基完成。

海岸局部改良事業として、

●人工リーフ(水の下)工事。

年間予算三〇〇〇万〜三五〇〇万を実施。

●海岸へ車進入防護柵工事実施。

おとしよりにやさしい道路工事、歩道改良が上石浦地区で行なわれている。KTRのガードまで継続事業として計画されている。

●国道舗装改良事業五〇〇m実施。

(2)建設省。

●福知山工事事務所へ、由良川

地域水防災対策計画について要望。

(3)宮津市。

●農道第一号幹線道の市道編入の要望。

●泉源開発については、地元業者共同で府へ申請する。

●由良簡易水道は、平成十年五七〇トンの貯水池(タンク)を建設する。この為に用地買収等行なわれた。

●下水道事業。

いち早く要望し、他地区より一歩リードして、運動をして行きたい。水洗化総合計画が策定されれば、市としても具

体化してくれると思う。

●老人福祉サービス施設。

市としては、中学校区を基準に考えているが、私は、由良地区が真剣に取り組んでいるので、デイサービス施設と介護支援センターを由良地区に建設整備されるものと確信している。

●老人福祉サービス施設。

市としては、中学校区を基準に考えているが、私は、由良地区が真剣に取り組んでいるので、デイサービス施設と介護支援センターを由良地区に建設整備されるものと確信している。

●老人福祉サービス施設。

市としては、中学校区を基準に考えているが、私は、由良地区が真剣に取り組んでいるので、デイサービス施設と介護支援センターを由良地区に建設整備されるものと確信している。

●老人福祉サービス施設。

市としては、中学校区を基準に考えているが、私は、由良地区が真剣に取り組んでいるので、デイサービス施設と介護支援センターを由良地区に建設整備されるものと確信している。

く。

●温泉としては、一五〇〇m以上は掘らなければならない(経費の問題)

●温泉としては、冷泉を発掘し、当面関係者は、冷泉を発掘し、由良温泉として営業していただきたい。

●十一業者の方が結束して、府の温泉審議会に、由良自治連合会も同意をして許可申請中です。

●由良小学校、校舎屋上より雨もりー修理完了。

●舞鶴海上保安部、巡視船「くらま」座礁事故。

九年十二月二十一日

午前八時、巡視船、由良海岸に座礁の報告を受ける。

同日、八時三十分、自治会長会を現場にて緊急開催し、市の消防防災課、消防署よりの状況を受ける。今後の対応を協議する。

十二月二十二日

宮津市に早期解決と海岸の砂等の安全確保を要望(市役所

へ)

十二月二十三日

舞鶴海上保安部次長、円子弘氏、宮津海上保安署長、志賀

修氏来由し由良自治連合会と脇自治会長、漁協支部へ陳謝、また地元として早期解決と問題の処理を要望する。

十二月二十四日

京都府宮津地方振興局に於いて、舞鶴海上保安部長の出席を求め、状況説明と地元被害について、早期解決と対応を強く要望。

出席者

振興局長・警察署長・水産事務

所長・保険所長・府土木事務

所長・外

地元出席者

宮津市長・由良自治連正副会

長・会計・観光協会由良支部

二名・宮津商工会議所

要望内容

イ速やかな離礁

口原因の究明

ハ異臭の除去 二騒音の除去

ホ燃料漏れ対策へ砂の分析ト油流出防止オイルフェンス自治会長会、巡視船座礁状況報告と協議。

十二月二十五日

二十六日に離礁作業(クレーン台船、新日本海事工業KK)自治会現場確認、巡視船離礁終了、十四時四十分。

十二月二十七日

舞鶴海上保安部長より海岸の砂採集並びに関係ごみ処理に現地に行き作業しますとの連絡を受ける(午前九時より部長以下二十名作業を実施する)自治連合会現地で立ち会う。

十二月二十八日

舞鶴海上保安部長より砂の分析を一月早々行なうので、お待ち頂きたい旨の電話を受ける。

平成十年一月十二日

舞鶴海上保安部長来由。

一月十四日

舞鶴海上保安部長来由。

以上、市政・由良地区の施

策について報告があり(一部割愛)質疑に入りました。

(質問◎ 回答●)

◎最近の情報関係の報告等に横文字が多い。何故横文字が多いのか。字引を見ながら読まなくては意味が分からない。

◎富田の堤防の横に、何年も軽トラックがほつてあるが、何とか処置は出来ないのか。

◎バタフライナイフ、中学生、高校生の問題で、親も七〇%責任がある。学校も大変だろうが、みんなで守つてやりた

い。

何か言つと、人権にかかると

言つている弁護士もいるが、殺

された親としたら、どんな気持ち

か。

親の身にもなつて考えてほし

い。

親はもつと、子供を監督、社

会も何とかしなくては。

●見やすい情報が必要である。

市、議会の方にも問題提起していききたい。

●土木事務所の問題であれば、事務所へ

民地であれば撤去してもらうようお願いする。

●文部省より、府教委く市教委と流されて来ていると思う。

◎福祉問題で、老人福祉施設が出来、温泉が出たら、市に一口もつてもらい温泉を入れ、

地区の方も利用できるよう考えてほしい。

◎折角の自治学級に参加者が少ない。

由良村当時の、村議会的なものにし、三十人く四十人招集し

傍聴者も受入れく市議会の由良地区はんとしたらどうか。

●温泉発掘は出たらお金を払う

その場合、毎分一〇〇円以上出なければならぬ。

毎分一〇〇円以上相当量出た場合、由良地区に共同浴場も

考えられる。

◎年を取つて来ると、題名の「住み良い由良」ということが気になつて来る。

宮津市の表玄関といわれているが、農協も合併され、石灰一袋買うのも電話で申し込みして配達となる。

将来の由良の為に、由良地区活性化対策委員会がある。

色々な問題を積極的に話し合っ
てほしい。

そうしたことが、由良の今後
の問題である。

●私達も由良で生れ、由良地区
で安心して住める様な環境作
りを進め、若い人が由良を基
点として、宮津、舞鶴等に勤
められる状況作り。

又、お年寄りがあらゆる福祉
施設を利用できる環境作りを
推進して行き、由良地区が、
宮津市の表玄関であるように
して行かなければならない。

京都縦貫自動車道は、宮津ま
では、二十一世紀初頭までか
かる。それまでに、由良の観
光、歴史等を最大限活用し、
お客様の足をとめるような施
策を考えなければならない。

◎農協は資金部よりない、由良

では農業をやる者がいない、
その他の何かを考えたらとい
つても人もいない。

◎民宿もだんだん少なくなり、
無くなるのではないか。

◎京都新聞に、栗田く由良山麓
の散歩道の記事が出ていたが
どうか。

◎消防団員さんは、昼間は二名
より居ないそう。

消防に入っ
てほしいと願
いしても、勤
めの都合等
でなかなか
入団してく
れない。消
防団に入る
のも義務と
思う。

◎丹後リゾート公園とはどんな
ものか。

●農業問題はきびしい、由良で
芋、花作りをやっている方が
何名かおられる。

今年の転作も三七・一%とき
びしい。由良地区では、多く
の方が反別が少なく、たくさ
ん作っている方に全部という
事も出来ない。
新食糧法では自由となってい

るが、国の方針であり色々こ
意見もあろうと思いますが協
力して下さい。

みかんは宮津市の特産品であ
るが、一部では頑張っている
が、多くのみかん園が減段や
廃園となっている。

●だけよりの道を市長も下見し
ているが、今のところどうな
るか分からない。

●消防団については、全国的な
問題である。

●京都府が行なっている事業と
民活によって行なう事業で、
今年から取り組む。

一四四ヘクタールの土地で、
民活二五・五ヘクタール、残
りは京都府となり、建物は余
り作らず自然のままに残して
行く。

◎岸田さんが寄附した土地は、用
便だけが目的のようだ。土地を
何とか利用できないのか。

●由良地区で福祉施設を作る場
合は利用してもらえると確信
している。

◎タイヤ、草刈機のエンジン等
は持ち帰りが出来ない、何ん
とか収集してもらえないか。

●新品タイヤ等購入のさい、取
つてもらおうようお願いしたい。

◎柑橘栽培参加の呼びかけ。
岸田 勇氏より由良みかんも、

同じ種類のものを作るだけで
は、何かにつけ他の栽培園に対
抗出来ない。

新らしい品種の試作として、
デコボン(おきつの試験場)

一本三〇〇〇円のもの五本栽
培した。少しではあるが、三個
入り六〇〇円で販売出来た。

(試食あり)
由良みかん園も五〇〇町歩

一三〇〇町歩となっている。
少しでも多くの方の栽培参加
をお願いしたい。

★新品種等お尋ねがありました
ら岸田 勇さんにお問い合わせ
下さい。

◎将来消防団について、東部地
区にも消防署が必要ではない
か。

◎人工が増えることが、若者の定住に繋がると思うが、道路も素通りになる気がするし、電化は舞鶴、宮津が主体となつてくる。

由良を素通りさせないように考えて行かねばならない。

◎温暖化にならない様、由良地区でも考えて行かなければならない。例えば冬期には灯油を節約するとか、自治会で考えてほしい。

●消防署がより近くにあつてほしいことは良く分かるが、宮津より約十二分程で対応出来ると思われる。

この問題については提起して行きたい。

●獅子に造成が終っているが、現在社会情勢が悪化のため思ふ様に行かない現状である。

●温暖化防止の講演会は持たせていただいた。各団体において、取り組みをお願いしたい。

◎庄内由良との交流を行なつてほしい。

◎京都において、生徒が少なくなつたので、三階建の校舎の二階部分を老人福祉に利用している所もある。

●庄内由良とは、昨年友好を深めたところである。

これから相互交流を続け、お互いの良い所を取り入れて行きたい。

次回は丹後由良より訪問することになつている。各団体とも良く話し合つて決めたい。

◎下水道について、配管図を書いて出してほしい(図面)

●宮津湾流域下水道は限られた地域で進められている。

由良地区の場合は、市の水洗化総合計画等策定後に具体化して行く。

◎要望事項。
▲国道一七五号線上、由良海岸

(由良についての)の看板は見当らないと思う。市の観光課に交渉してもらつたら。

▲由良の鉄橋をライトアップして浮き上がらせたらどうか。

▲赤字をかかえているKTR(北近畿タンゴ鉄道)。市の指導で職員は列車を使つてもらうよう働きかけたらどうか。

◎障害者の一級をもらつていた。老齢年金をもらつていたら障害年金はもらえないのか。

●勉強させていただき連絡します。

◎今回の題名は「明るく希望に満ちた、住み良い由良の創出」でした。

まだまだご意見、お尋ねもありましたが、予定の時間が来ましたので終了させていただきます。

出席できなかつた方々も、「如何にしたら、由良が良くなるか」一考下さつて、次回、ご意見等お聞かせいただければ幸いです。

山下議員にはお忙しいところ講話有難うございました。又、ご出席の皆様にも厚くお礼申し上げます。



思いやりの心

由良小学校長

角尾 誠

ある時お釈迦様が地獄にいる人と、極楽にいる人の様子をご覧になりました。

初めに地獄の人々の様子から見られることになりました。ちようど食事の時間で、地獄にいる人達は食事の合図で「腹ぺこだ。」と言いながら集まってきました。

一人一人に箸が手渡されましたが、それは随分と長いもので六十センチ以上もあるものでした。次に食べ物が並べられました。六十センチ以上の長い箸で食べ物をはさみ、自分の口に持つてくることは大変なことです。地獄の人達はみんな困って、ポロポロと食べ物をこぼし、ほとんど自分の口に入らないのです。そして、結局食べ物は沢山残ってしまいました。食

事の時間が終わると、さつさと食べ物の残りは片付けられてしまいみんなは食事の場所から帰らなければなりません。

地獄の人は、毎日の食事の時には長い箸に悩まされ、ろくに食べ物か喉を通らず、いつも腹をすかしていました。その為か青く痩せた顔をし、ひよろひよろと歩いていたり、色々と喧嘩などもして暮らしている訳がお釈迦様にはよくお分かりになりました。

次に、極楽の人々の食事をご覧になられました。するとどうでしょう。極楽でも地獄と全く同様にやはり六十センチ以上の長い箸が一人一人に渡されました。ところが、食べ物か並べられますと、極楽の人達はその長い箸で食べ物をはさみ、それを

自分の口に持つていくのではなく、お互いに向き合い、相手の口に運び、自分も又相手の人に食べさせてもらっているのです。食事の終わりの時間も地獄と同じでしたが、食器には食べ物かひとつも残っておらず、すつかりみんなの腹に収まっています。お釈迦様は極楽の人達が丸々と太り、いつもにこにこ楽しく暮らしている訳がよくお分かりになりましたのであります。

さて、豊かな心の育成が求められる現在、本校でも目指す子供像として「思いやりのある子供」の育成を掲げています。

日々の授業や学校行事等を通して、自分だけがよければよいという考えを改め、相手の立場を考えて、思いやりの心で行動できる子供を育てたいと念願しているわけです。

又、特色ある学校づくりとして保護者・地域の方々を取組をよく理解してもらえらる様にと正面玄

関上に看板を設置しました。

「浜の子でつかい砂浜教室」をテーマに据え、由良の自然を教室として積極的に活用し、様々な触合い・体験を通して自然の力や素晴らしさに驚き、豊かな心、特に感動する心を育みたいと考えています。そして、自分の郷土を誇りと自信を持つて語れる子供を育てていきたいと実践も進めています。

今後とも、各家庭・地域の方々のご理解・協力をお願いします。



四部対抗バレーボール大会に

参加して

森 田 美砂子

何年前か、初めて参加させてもらった時は誰が誰だかわからず、同じ地区でも「あの人のこの地区だったかな」と思ったり、「あの人は、どここの人だ。」ということも教えてもらっても、なかなか覚えられず、何度も何度も繰り返し聞いていたように思います。

でも前回あたりから、どこの地区の人だということが少しずつわかり始め、今年度は、子供が幼稚園に入ったこともあり、「○○くんのお父さんや」という見方が加わり、大変楽しく参加させていただくことが出来ました。

若返り作戦のチームや九人しかメンバーが集まらなかったチーム、ベテランチームあり、様々でしたが、どの試合も手に

汗握る接戦で珍プレー好プレーが続出。みなさんが真剣にひとつのボールを追いかけている姿に応援する側も気の抜けない試合の連続でした。

寒い時なので、ボールを受けるとすぐ痛く、寒くて体が思う様に動かず（寒さだけではなにかもしれませんが）、ようやく体が温まった頃におしまいとなりみなさん大変だったと思います。

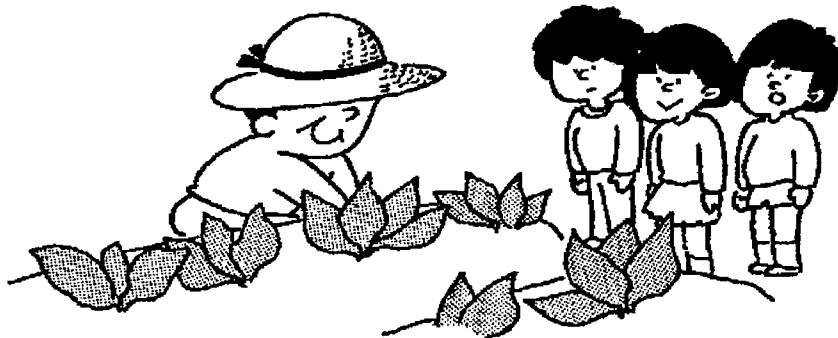
また譲り合いでボールが「ポトン！」と落ちるシーンもたくさんありました。「あらそんなに遠慮なさらないで...」「道もそれくらい譲り合えば交通事故も減るだろうに...?」と思っ

ていた方もいるのではないのでしょうか。和気藹々楽しく試合が出来たのではないかなと感じ

ました。

また他チームの試合を観戦中、温かい飲み物やおやつなどをいただき、世間話に華を咲かせ日頃あまりお話をする機会のない人たちとの交流が深められたことは、本当によかったと思います。年代の違う人たちとふれあう場として、とてもいいと思いますので若い人たちもベテランの人たちもたくさん参加してほしいと願います。

最後になりましたが、役員の皆様方には、事前よりの準備、当日の細かな事まで大変お世話になり、心より御礼を申し上げます。



— 由良地区 —

福祉懇談会を終えて

民生児童委員 山田正美

去る一月十七日、里センターに於いて福祉懇談会が開催されました。ご承知のように、少子高齢化は急速に進行していま

す。これが対応に向けて、行政は勿論、社会福祉協議会等関係

機関により、各種の福祉施策が

実施されています。今回の福祉

懇談会も社協の提唱によるもの

で、各種の施策が地域に根ざす

事を願つての企画で、今後も継

続されます。

由良地区もこれを受けて、行

政、社協、担当者の出席を得て

実施されました。当日は、地区

諸団体の協力により、五十名を

上回る集会になりました。今回の

のテーマを「高齢者を支援する

地域福祉」ということで進めら

れました。そのあらましを紹介

させていただきます。

○子供から老人に対する会話が
ない。乏しい。

○国民宿舎下の荒廃田を福祉施
設に活用して欲しい。

○高齢者世帯の先行きが不安で
あり、これに対するケアをもつ
て欲しい。

○就職口がないため、若い人達
の市外への流出問題。

○女性の一人暮らしよりも男性の
一人暮らしの方が問題点が多い。

○常時利用できるサロン風の場
所が欲しい。(痴呆予防の意
味で) また、孤立しないよう
周囲の理解と協力が必要。

○石浦のみみじ公園を福祉ゾー
ンとして、週に一、二回地区
別にでも利用できる施設の誘
致を望む。

○高齢者の多い遠隔地へボラン
ティアとして、老人向けの体

操を指導している。その体験
報告。

これらの意見、要望に対して
行政、社協担当より次のような
発言がありました。

○ホームヘルパー、天橋園、及
び在宅介護支援センター等の
紹介と活用方法。

○趣味の会、ゲートボール、人
材銀行、老人大学等に自ら積
極的に参加して仲間づくりを
して欲しい。

○ホームヘルパーは家事一般の
手伝いのみでなく話し相手も
仕事になっている。

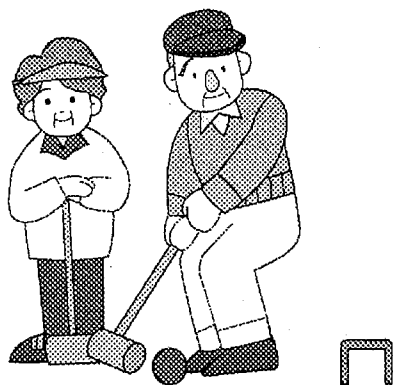
○福祉施設(デイサービス)につ
いては、中学校区単位に建設
予定で現在審議中。由良自治
連も長年の懸案事項であり全
力投球で早期実現を目指して
いる旨の報告がありました。

以上初回でもあつてか、今一
つの感でしたが、今後更に懇談
会を重ね互いの連携行動によつ
て、安心して暮せる街づくりが
より前進するものと期待するも

のです。

なお民生児童委員は、これら
多くの問題に深く関わりをもつ
のは当然ですし、日頃関係機関
と住民の橋渡し、パイプ役とし
て不十分ながら務めているとこ
ろです。福祉に関する相談等気
軽に利用頂ければ幸いに思いま
す。

よろしくご理解とご協力の
程、お願い致します。



ホームヘルパーとして

思うがままに

中 西 満さ子

ホームヘルパーの派遣事業は、約三十年前から制定されていたと聞いておりました。平成元年度に高齢化社会の急速な進展に対応して、国が策定した

「高齢者保健福祉十ヶ年戦略」(ゴールドプラン)では、デイサービス事業、ショートステイ(短期保護)事業、とともに

ホームヘルプ事業が三本柱として位置づけられ、ヘルパーの増員とともに養成研修も導入されて期待とその必要性は、ますます高まっている現在です。

私も定められた仕事の合間をやり繰りし、ホームヘルパーとして主に家事型援助を中心に取り組みさせていたただいております。最初の対象者は、他地域の人であり充分な生活環境も把握

しないままにのぞんだ事もあり、思い出深いものがあります。

自己紹介も含めて挨拶を交す内に、突然「貴女の趣味は：五千円札、一万円札の人は誰：：幸いにもすんなりと答えられたものの、会話していく内にこの人の社会性、近所との関わり合いの様子が多岐にわたって来て、ああこの人は孤独な人なのだ、家族関係もしくりいつていない淋しさの中に強がりか

先行しているのだと直感しました。次回の訪問からは援助のかたわら会話を通じ相手の立場になり、まず信頼関係を築いていこう。そして専門職として期待を持ってもらう事、そういった意味で健康状態、家族状況、一

日の生活状況、希望やニーズの内容、そしてこの人の長所を探し乍らの対応に、顔には笑みを浮かべ、胸の内には緊張そのものでした。

その内に訪問毎に対象者は柔軟な表情で時々私の話を楽しげに声を出して笑うのでした。そして「私、今声を出して笑っていたわネ」この普通の事がこの人にとつて特別な事のように思えた。「では又次の日までさようなら」訪問三日目から玄関で見えなくなる迄見送り、手を振つて下さる小さな姿は何とも可愛らしく、いとおいしい感じさえする程でした。この人とは二年でヘルパーを交代しましたが印象深い人でした。

家族の機能を失いかけたお年寄りにとつて、いやお年寄りのみならず人間にとつて大切なものは人とのふれ合いであります。しかもそれは「十把一からげ」のものでなく、個人的な対話であり接触であると思いま

す。私は今もヘルパーとして幸い地域の人の、二名への関わりを持たせていただいております、人生の大先輩だけに学ぶ事が多いのです。話し相手をして居る内に昔話に華が咲く、この人の過去からの積み重ねを思えばただただ頭が下がる事もしばしばで、その人の歴史の重みを感じます。もちろん愚痴もあります。誰しも同じです。それはこちらが聞く耳を持つてわかつてあげ、その人の心の落ち着きを助けられればと思います。こうして現在も好きなホームヘルパーの仕事が続けさせていたただいております。

在宅福祉についてホームヘルパーは勿論の事ですが、近くに住む独居老人が何をしているか、又何をしてあげるべきか、さらには何をしてもらうべきかを、みんなが見極めた上で連携を取り合い、互いに助け合いたいものです。

リング畑始末記

川崎利晴

私は、いま話題になつております、高齢化社会と言われる渦の中に呑みこまれようとしております。

いつか、孫達に「おじいちゃんには百二十五歳まで生けるかも知れない」と、脳内革命の読書感を洩らすと、一斉に「ウツソー、絶対無理や」の言葉が返つて来ました。それを聞いた母親が「それまで永生きしてや、と言いなよ」で一件落着に思われたが、待てよ、ほんとにそうなれば日本の社会構造はどうなるのかな、と思うと眠れなくなりしました。

後姿は老人特有の猫背になつているかも知れないが、心の中では「まだまだ若いものには負けないぞ」、と力んでいるのが、昭和三年生れ辰歳の心境で

す。

しかし、熟年者から見れば、年寄りの冷や水と鼻先であしらわれそうで、仲々口に出す勇氣のないのが実情であります。

去年は、荒れていた山畑を開墾して、リングの苗木を植えたのですが、その経緯が面白い。

「今度なあ、山畑を開墾してリング苗を植えよと思うんやけど」と言うと、家内は「あんた今なんぼやと思とるのや、歳の事も考えずに、そんな話にはよう協力せんで、私も歳やから、これから楽しまん」と木で鼻を括つたような、つれない返事である。若い夫婦は「おじいさんな、自分勝手に話を決めんといて。みかん畑くらいは面倒みるけれど、次の世代になつてから荒したと言われたら知らんで

な。植えても更地にして、ゴルフの打放し場にするか、植林にするか分からんで」と猛反対である。孫は「おじいちゃんえーやないのすき勝手にしたら」心強い味方である。

「よし、自分勝手にやるから、その代り、わしが死んだら勝手に処分してもよい、と遺言状を書いとくでな」、公開したから、もう遺言状を書く必要が無くなりました。

それからが大変である。みかん組合長研修会で訪れた、長野市リング栽培農家を知人に持つ組合長Kさんの紹介で、苗の買付け、植付けの指導、手続き等の手配を戴き、早速開墾に取りかかったのですが、これが又予想した以上に困難な作業となり、近くに住むYさんに協力を願ひ、ユンボによる荒起し作業で、機械の威力をマザマザと見せつけられました。その後の整地作業を無理して、歯痛となり、十日間の通院となりまし

た。十二月末には苗木も植終り、やつと一息ついた今日此の頃であります。

「なぜそんな無謀な事を…」と笑う人もあろうかと思ひますが、それは、研修先のリング園に魅せられた事と、私の頭の片隅に、高齢化社会がよぎり、余暇の利用をどの様に楽しく過ごすか、その場を提供し、活用出来ないかと言うのが発想の原点にありました。

また、次の様な相乗効果が期待されるのではないかと列挙してみました。

- 一、半山間地農業の振興。
- 二、観光農地の開発により、滞在観光客の誘致。
 - (イ)温泉、漁業、農業のリンク効果を図る。
 - (ロ)健康増進と、リクリエーションの創造。
- 三、地元特産品の開発。
 - (イ)みかんとリングの共同販売(収穫期が同時期)
 - (ロ)ヤーコンの栽培による減



反地の有効利用。
 (ハリンゴとヤーコンのミツクスによるジュース及びジャム製品の開発(健康食品))
 四、定年退職者の営農回帰。
 その他色々と思いが交錯する中で、リンゴ畑より、眼下に広がる景色を眺めながら、ふと目を閉じると、
 定年退職となった父親が観光園地になり、たわわに実る樹を差しながら、「おじいさん、こ

の枝はどう剪定するのかな」
 サラリーマンとなった孫が、車から「おじいさん、お父さんの邪魔せんように迎えに来たよ」と、十年後の束の間の夢を見たようであった。



川柳

宮津番傘川柳会

てのひらの重さよ果てしない我欲

まだ脈がありそう笑顔置いてくる

移ろいの石がだんだん丸くなる

燃え尽きた野心が十指からこぼれ

改悛の門に踏み絵が置いてある

埋もれ木の火種が風を呼んでいる

大森美智子



飯沢 鳴窓

花の記

中西夏江

先年、一人の学生と七曲り八峠(長尾峠)の道を上った。

山椒太夫伝説の跡の一つ、柴勸進を訪ねたいという彼の手には、金盞花の一束が揺れる。厨子王への想いだろうか。花屋で求めたであろう包装紙が光る。その日は風もなく殆ど無音の風景の中で、その金盞花を碑に手向けて合掌する彼の背に爽やかな優しさを感じた。

売られて来て名告らぬ厨子王に、山椒太夫は「わすれぐさ」という名をつけた。夏野に咲く八重咲きの花で赤黄色。金盞花と全く同色なので、そんなことも話しながら峠道を少し上る。

「この道は……」の間に、かつては西国の観音霊場をめぐる遍路みちであったこと、山陰鎮撫使西園寺公望(政治家)の隊列が、

明治一年維新の風を吹かせていったこと、そして何軒かの長尾村には、茶店もあつたが、文化十一年廃村となつたこと、今はもう石畳の古道は途中で尽きてしまつた(明治二十年、奈良の新道が開通)など、伝説のこの土地の今昔は、淡い残照の中にあるようで……と語る。

街道の営み終えし七曲り八峠の奥のふかき眠りや

常緑のやぶ蘭がまだ花をつけていない坂道には、高木の椿が名残りの紅色をふかめていた。

百二百椿の花の下り坂山のたましいい深閑として

昨夏、由良駅一番ホームに沿つてしつかりと、なぜか異国めいて咲く花に目が止まつた。駅の吉田さんに尋ねると「曼陀羅華」と

いう名で、吉田さんが自宅栽培の何本かをここに移植されたそうである。

梵語の「曼陀羅」を名にもつこの花は別名「朝鮮朝顔」。大型の漏斗状で白色。独特の気韻を漂わせ、恰も一つの意志を貫くかのようには咲いているのだ。

一つおもい遂げゆかんとし海の駅に曼陀羅華はほうと惜命に咲く

また、実は球形で多くの刺をもち、全体に有毒。葉は薬用。

定まりて固くゆゆしき有毒の曼陀羅華の実も何にか耐えんひとりイメージをふくらませ、あれこれとこの花の身になつて

連想していると、一瞬、旅人になつたような気もしてくる。

夏には、旅人達の目を愉しませてくれたであろうこの曼陀羅華と吉田さんに感謝する。

由良駅前の桜の蕾がふくらんで来た。

ことし、七十五年めを迎えた桜

樹たちである。大正十三年、由良駅の運輸営業開始に伴いその記念の植樹。当時、由良小学校の上級生達が「やかん」に水を入れて運び、世話をしたと聞いてからも随分の歳月が流れた。由良駅玄関から真つ直ぐに海に向う桜並木は実に豊饒であつた。春は爛漫の花を咲かせ、夏は涼やかな緑陰を作り、秋は桜紅葉の舞を降らせる。付近の中村さん達がいつも奇麗に掃いて下さる。そのご苦労も桜を支える一つの力。お礼を申し上げる。何年前かの舗装以来、樹根は窮屈になり、樹齡も重ね、少しずつ憂いと衰弱の相を見せ始めた。

三月半ば、里センターの事務室に大ぶりの桜の枝が活けられ、白い花を咲かせていた。白さもひとしおなので珍しく、小西さんに聞くと、大分前の寒い日、折れたのか、伐られたのか、落ちていた枝が哀れに思えて拾つて来て……ということであつた。

落ちたままであれば朽ちてし

まったであろう桜の大枝は、救われて固い小さな蕾を見事に開いた。それは、冬桜にも似て美しく清楚で、生命の存在感を確かめるに充分であった。

この駅前の桜樹にも十年前、受難の風が吹いた。舗装の為伐らねば……という事態が生じ、人間優先をとるか、櫻と共生するかについて討論や署名等が行われ、桜はまた、生き続けることになった。

昨春は、この駅前の桜の下で花見の宴が開かれたと聞く。充分に活力溢れる桜樹もあるのだ。人も花も共に楽しむことの出来る春は有難い。

桜の日本最古の樹齢は、山梨県の神代桜が千六百年で、続く岐阜県の淡墨桜は千四百年。そして御母衣^{みほろ}ダムの水面に姿を写す樹齢五百年の桜は、ダム水没の際二人の老人が世間の反対を押し切つて敢行し、移植へこぎつけた。水没で都会へ引越した人々が、今も桜に合いくるという。五百年の大樹を移植し活着させ

た美挙。このことは三月二十日NHK TV「映像が語る日本のふるさと」でも放映された。「老桜のつぶやき」と題して懸命に咲く桜をアマチュア作家が感動的な映像に仕上げた。

篠田監督は「五百年の桜があらぬに蘇つて人の心にしみる。空想や夢にひたる世界、哲学的な世界だ」と祈念を湛える言葉。

水上勉氏は「樹は守れば植えかえられる」と迫力のある一言。

幼い苗木が風雪に耐えて成長し、そして老いて来た。いつかは枯死するとしても、守る熱とその手立てによつて長く息づく樹は多い。老桜は二世を、また三世を生むだろう。人は皆そうして今、高齢の春を生きている。

「二度樹医さんに診てほしい。」という声もきかれる駅前桜樹。自然は黙っているが、私達は自然に親しく寄り添つて生きていくのだ。時の流れ、移ろいの中で肩の上に花ふりて由良駅前の桜樹は高し 月に逢うとき

春の交通安全について

由良駐在所 森 田 浩 志

(1)はじめに

陽春の候、皆さんいかがお過ごしでしょうか。この時期は、入園・入学・就職と生活環境が変わり、期待や不安によつて、精神的にも不安定になりがちです。毎年のことながら、春の交通安全運動が実施されるのは、こういつた環境の変化によつて起る事故を防止しようとする狙いがあります。「一年の計は元旦にあり」と言いますが、「交通安全の計は春にあり」と言えます。一年を事故なく過ごすためにも最初が肝心です。

(2)車と人の共存

人間は誰しも自己中心的な部分があり、歩行者である時は歩行者の立場で、車を運転している時はドライバーの立場で見えてしまいます。

例えば、歩行中に交差点を横

断しようとしたところ、反対から車がすり抜けて衝突しそうになったとします。皆さんは「なんて横暴な車、歩行者優先じゃないのか」と感じると思います。反対に。車を運転している時、交差点を通過しようとしたところ、急に歩行者が出てきた場合「急に出てきて、危ない歩行者だ」と感じるでしょう。交通事故の原点はそこにあるのです。横暴な車と危ない歩行者がいて事故は起るのです。最近の交通事故の取り扱い状況を見ても、どちらか一方が注意していれば未然に防げた事故が多くあります。御存じのとおり、人と車の事故では、人身事故につながるケースがほとんどです。その中で死亡事故も少なくあり

ません。悲惨な事故をなくすためにも、人は車を人は人を、互いに相手の立場に立った交通安全に心掛けて欲しいと思います。

(3)家庭での安全教育

子供を持つ親としては、「交通事故だけには、注意して」と誰しもが願っていることだと思います。ただ、願うだけでは事故防止にはつながりません。

徹底して安全教育を行なうことによつて、子供の時だけでなく、将来社会人となりドライバーとなつた時にも、子供の頃に受けた安全教育が役立つのです。専門的なことは要しませんが、「道路をわたる時は、右・左を見て」と言うような基本的なことをしっかりと実行できるよ

(4)おわりに

私事ではありますが、この度

の人事異動により、この由良の地を離れることになりました。三年間という短い間ではありましたが、地域の皆さんには公私を問わずお世話になり感謝しております。これからも、由良が「安全で住みよいまち」であることを願っております。



— 講演 —

「からだの見方」を聴いて

四方 寿朗

去る二月二日夜私は宮津市
民大講座で、元東大教授（解剖学）養老孟司先生の「からだの見方」という講演を聴いた。

が異常だから又三日後に来なさいで終りだった。これでは或る程度体力が無いと病気にもかかれないと思つた。

臨床医にはない広い視野から現代医学を論じておられ、大変興味深いお話だった。是非由良の皆さんにもと考え、その大要を述べ、私の感想も加えて公民館からの原稿依頼の責を果たすことにする。

このように現代医学は人間の身体を全て検査数値で計量化し、それを基準化、理論化して健康か否かを決める。現代の医者の中のにある人間の理想は、これらの基準に合った言うなれば人工身体である。

私は医師の免許は持つているが、臨床のことは全く解らない医者である。何時か人並みに大医学院で人間ドックの検査を受けたことがある。朝から何も食わずに先ず尿を採り、それからいろいろな検査、検査、検査、その間長く待たされ夕方近く漸く医師に呼ばれた。たぐさんの数字を見せられ、これとこれと

我々が病気になつた時利用する健康保険制度も又、同じく計量化、標準化されている。定められた基準に従つて治療しないと、治療費は支払われない。しからはその大切な基準はどうして決められるのか。例えば血圧、多くの人を測定して、その九五%を一応正常と決め、残りの五%を低い方と高い方の異

常と決めるのである。殆ど医学的な根拠は無い。

又現代医学の先端機器CTが身体を輪切りにして見せるといつても、その画像は実は身体の中の測定した数値をコンピュータが絵にしたもので、実際の身体ではない。人間の頭が作った人工身体に過ぎない。

脳の機能測定、例えば入学試験にしても、横軸に点数、縦軸に人数をとってグラフを描き、富士山の頂上を丸くしたような曲線を描かせると言うより、このような曲線になるように問題をつくる。さもないければ問題が悪いということになる。東大医学部の合格者は、このカーブの右の裾野のごく小さな三角形の中の人達である。血圧測定のカップで言えば、血圧が三〇〇以上の人だけが入学できるのだ。普通の人から見れば、極めて異常な人達の集団である。この人達が今の日本を動かしている。先程私が述べた人工身体も

この人達の常識の産物である。現代人の理想社会は脳が作った脳化社会であり、脳の機能に頼り過ぎた社会と言うべきである。

これに対して自然の身体というのは、人の体はみなそれぞれ違っていて当然である。標準など存在しないという考え方だ。仏教で言う四苦、即ち生老病死、人はこの世に生まれ出るとで苦しみが始まり、老い、病み、最後には必ず死ぬ。どれも避けて通ることは出来ない。しかし現代人はこれらの苦を忘れていのか、考えていない。自分には死なないと思っている。

先の大戦直後までは普通、生老病死はすべて家の中で行なわれた。現在はどうか、お産はすべて病院、都会に老人の影はうすい。重い病人はすべて入院し九〇%以上の人々が病院で死ぬ。都会の高層アパートのエレベータに棺桶は乗せられない。都会人は人の死ぬことなど考えてい

ない。

近年癌の告知がよく問題になるが、私はこれを論じても無意味だと考える。何故なら現代人は先程言ったように、癌になることや死ぬことなど考えていない。「癌になったら」と「癌になつた」とは全く立場が違う。なつてからの意見でないという意味がないからである。私は4歳の時に父を失つた。その臨終から葬儀まで克明に憶えている。しかし現代の子供にとつて死は、アニメやテレビの映像の中での出来事に過ぎない。だから、体育祭を中止にしなければ自殺するなど、学校へ脅迫電話を掛けたりする。現在の大会には自然が殆ど残っていない。広場も道路も川も家も、すべてコンクリートに被われている。しかし都会人は此処で安心する。ゴキブリや落ち葉など、自然の産物には不安を感じる。今日日本で年間約一万人が交通事故でも、インフルエンザでも死亡してい

る。現代人は交通事故は余り問題にしないが、インフルエンザは何とか減らせないと文句を言う。

「現代の都会に自然は無いし都会人は自然の大切さを忘れていいる。現代医学は数字に走り過ぎていいる。人間の個性をもっと尊重すべきである」以上が私がまとめた養老先生の講演の概要である。

人間の体を点数化するよい例が、今問題になつていいる臓器移植である。検査の数値が基準以下になつた自分の臓器を捨て、他人のをもらう。提供者の脳の検査で基準以下になつた人を脳死と判定し、心臓や肝臓を移植しようというのだ。現代の最先端医学を駆使しても、やはり自動車の部品交換と違って、どちらの側にもいいる問題が起きる。糖尿病の重症度が単に血液中のブドウ糖の高低だけで決まる訳ではない。中風の発作

が血圧の高い順番に起きるとは限らない。

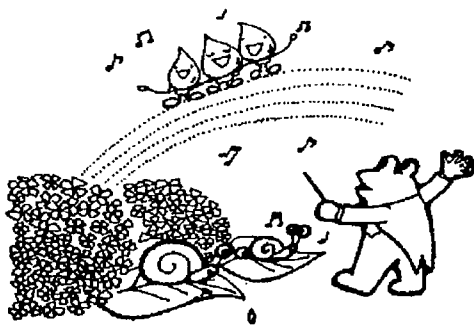
日本の国技、相撲が海外でも人気が高い。その大きな理由は他の多くのスポーツと異なり、相撲には体重による階級別がないことだろう。体の小さな力士が大きな人を投げ倒す妙技が、観る人の感動を呼ぶのに違いない。長野の冬期オリンピックは、これまでにない日本選手の大活躍で無事終了した。私は特にパラリンピックで、いろいろな障害にもめげず、厳しい条件のもとで体力の限界に挑戦し、金メダルの栄光に笑顔で答える多くの選手の生きざまに胸の熱くなるのを覚えた。

科学が進歩して何もかもが数字に置き換えられ、判断される今日、数値には表れない喜びや悲しみ、苦しみが人間には沢山あることを忘れてはならない。人はみな定年を過ぎれば、一つや二つ病気を持っているのが当たり前、而も大抵死ぬまで治ら

ない。一病息災、退治しようなんてとんでもない。だましたり、なだめたり、最後まで何とか一緒に暮らすことを考えるしかない。

私はもう七〇を過ぎた。今さら癌になっても、ならなくても先の寿命に大して差はない。健康は人生の目的ではなく、幸せの一つの手段に過ぎない。細かい数字を気にせず、明るく楽しく而も真剣に自分の生涯を終りたいと願っている。

(平成一〇、三、二三)



駅だより (Ⅲ)

ターミナルセンター

吉田 あい子

平成十年三月十四日(土)ダイヤ改正が行なわれました。北近畿タンゴ鉄道は改正されずに変わりなく運転されています。改正は、JR福知山線、播但線の一部と、新幹線です。
お確かめの上お出かけ下さい。

- ◎丹後由良駅発の特急列車のご案内。
案内。
- ① 京都市―西舞鶴、山陰経由。
七時五十八分発、特急タンゴデイスカバリ―二二号↓綾部着八時三十六分―のりかえ待五分。綾部八時四十一分発、特急きのさき二号―京都九時五十分着。
- ② 由良九時五分発、特急タンゴエクスプローラー―二二号↓京都直通、十時五十六分着です。
三両編成で自由席一両のため、
- ◎宮津より宮福線経由、福知山より、山陰線で京都まで……福知山線経由の大阪行もご利用いただけます。
- なお、お出かけの場合、乗車

- ③ 由良十時四十二分発、特急タンゴデイスカバリ―四号↓綾部着十一時二十五分―のりかえ待八分、綾部十一時三十三分発、特急はしだて四号↓京都十二時三十五分着。
- ④ 由良十六時五十二分発、特急タンゴデイスカバリ―二四号↓綾部着十七時三十三分―のりかえ待十二分。綾部十七時四十五分発、特急きのさき十号↓京都十八時五十四分着。
- 以上四本の特急は毎日運転されています。

券、特急券、座席の指定券等、ご入用の方は当駅においてお取り扱いをいたしておりますので、前もってご連絡下さい。

●丹後由良駅に、特急列車が停車できること、それは観光地として美しい海があり、海の幸、みかん狩り、ハクレイ酒造の地酒、山椒大夫の旧跡ありなど、京阪神をはじめ、関東、九州の方からも観光客の方が、特急を利用して、夫々の目的で年中来られています。

そのお客様を受け入れる仕事をされている方、地域の方々の力で丹後由良駅に特急列車が止まることを誇りに思っています。

そうして宮津線の中の、丹後由良駅が、生き生きとしていてほしいと願っています。

●普通列車は、不便な部分もあ

観光の方達からは、小さな

わいい列車として、この宮津線に似合っているのだそうです。毎日通勤されている方からは、いつも駅構内の電気の球切れなど、親切に教えていただいたり、雪の日には手伝っていたり、雪の日は本当に有難く思います。

宮津線の駅舎の中で、夜間、駅舎が解放されているのは、丹後由良駅だけとなっています。

夜、おそく見えられるお客様、風の良く吹く寒い所でもあり、駅舎はどうしても閉めることが出来ません。

いつでも気軽に立ち寄れる、明るい駅でいられたらと思っています。

これからも、色々な方に力になつていただいて、丹後由良駅を守つて行きたいと思えます。どんなことでも、お気軽にお尋ね下さい。



新宮涼庭 (一)

新宮 豊

新宮涼庭の伝記を書くにあたり、元神戸女子大学山本四郎教授、現京都大学総合人間学部松田清教授の調査、研究されたのを基にして執筆することにした。

涼庭は天明七年、(一七八七年、十一代将軍家斉) 丹後由良に生まれた。父道庵は放浪自適な性格で、家産をついやしそ

であつたので母お基(浜屋市郎右工門四女)は日夜紡織をし、家計をささえていた。涼庭は幼時より群兒にすぐれ、村内松原寺住僧について読経の句読をうけ、かつ書を学んだ。

常に僧が諸経を講じて問答するのを聞き、一たび聞けば忘れなかつた。又群兒と遊ぶ場合も、自らその長となり衆技の優劣を査別し、優れたものには果物などを与えて賞し、勸戒よろしき

を得たので、群兒みな悦服し、命に従つたと言う。

十一才にして福知山の伯父有馬涼築(福地山藩典医)の学僕となつた。寛政九年(一七九七)のことである。

當時有馬家は医名の高いにもかかわらず、財政的にはあまり豊かでなかつたので、涼庭は調剤の見習いのみでなく、家事労働にも服した。しかもかかる多忙の中にあつても勉学を怠らなかつた。

この頃経書を巖溪嵩台に学び、三年後には「傷寒論」が解読できるまでになつた。涼庭は享保二年(一八〇二)十六才の時従兄の有馬丹山の学僕として、丹山の主君福地山藩主朽木昌綱侯に随行し江戸へ行った。

当時江戸には蘭学の名医杉田玄白、前野良沢がいた。江戸滞

在二年間にこれら先輩に接し、西洋医学のすばらしさをひしひしと感じたようである。

西遊の志が固くなつたが両親は許さなかつた。そのうちに田辺藩家老に英哲の聞え高い内海不なる人物があり、涼庭の志に感じ官に懇願した。

ここにおいて涼庭は官許を得て素志を達することを得たのである。

この修業のため、修業料と月俸二口を支給された。町医でかかる待遇をえたのは、当時の田辺藩では異例のことであつたといふ。

さて長崎遊学の許可を得た涼庭は将来の希望に胸をふくらませ旅装を整え、金五兩と道中記一帖の入った袋を首にかけ、文化七年八月六日数十人の人に見送られ郷里を後にした。

福地山丹波松山の近藤一之進宅で一泊、そして京都へ入った。大阪では野呂天然の門をたいた。彼は当時漢蘭二法を折衷して新医学をおこした人であ

る。

それから岡山を経て、広島に到り、頼山陽、頼春風（山陽の伯父）に会う、又山陽地方の名医恵美三白に会い、ここで十ヶ月滞在した。

涼庭の長崎における最初の師は吉雄如淵で入門は文化十年十月二日となつてゐる。如淵は文化六年オランダ商館のヘートルに英語、商館長ドウーフについてフランス語を学んだ人である。

しかし如淵の一つの悪習は遊湯であつた。彼はしばしば丸山遊廓に遊び、教授してくれないので、涼庭は師のありかをさがし、愛妓を買つて師を遊ばせ、その面前で横文字を徹夜で勉強したと言ふ。

涼庭の長崎時代の猛勉強により文化十二年プレんキの外科書と解剖書を訳している。これが涼庭死後「解体書」として出版された。さらにこの年ゴルテルの外科書を翻訳して「窮理外科」を出版しようとしていた。

又長崎出島における商館長ドウーフおよび蘭医フェイルケとの間に強い信頼感によつてむすばれていたようである。香川大学図書館にフェイルケから涼庭宛の手紙原書四通が保管されている。

涼庭とフェイルケとの交流は一年半ばかりで三十五才で没している。フェイルケ死後商館長ドウーフより、師の看病に薬石を投与した労に感謝し「ゴルテル外科書」を涼庭に贈与している。

この外科書を翻訳して「窮理外科」第七編を出版している。又涼庭は長崎でフェイルケ以外にバテイ、スロイトル、アンズリ等に従事して医術の主要を学んで、鴻益を得たと言ふ。又優れた語学力を生かしてゴルテル、スイーテン、フォーヘランド、コンスプルックなどの新しい医学を直接原書から学び、後世のたゆまぬ翻訳活動、医療活動の基礎を身につけたのである。

編集後記

公民館だより第一〇四号が、皆様のお手元にお届け出来るのは、葉桜の頃、山麓の若芽が萌え始めたころだと思ひます。

平成九年度事業も皆様の温かいご支援をいただき、意義深く終了することが出来ました。残念であつたのは、大運動会や恒例のお盆行事が生憎の雨天のため中止となりました。特に大運動会は地区を挙げてのイベントであり、残念の一語につきまます。

駅道の桜も開花を早め、三四分咲きの花びらを誇らしく見せています。若芽のついた木々の梢や竹藪で鳴いている鶯の囀りも上手になりました。野良でも春の陽をあびて農作業の人影が多く見られます。

いよいよ今年も始まりです。公民館活動にも一層のご関心を賜り、ご支援ご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

平成十年三月記

山下